

この中津の江戸時代の住居は福沢諭吉(1835-1901)の故郷であった。彼は日本の西洋化における重要な人物になることになっていた。1860 年合衆国を訪問した後、彼は日本に戻り 1872 年彼の著書「学問のすゝめ」で教育制度の改善を提唱した。彼はその後、東京に慶応大学を設立するに至った。今日では彼の肖像画が 10,000 円札に描かれている。

福沢の幼少期の家は中津城からわずかに離れたところにあった。その家に住んでいた人物の歴史的な重要性に加え、家そのものが江戸時代(1603-1867)の建築の素晴らしい例である。そして隣接する博物館には福沢がそこにいた時代の手記や他の遺物がある。